

地方出版  
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
年間	1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 出版不況と“出版社不信”のはざままで



文・三原 浩良

出版界、驚愕の年明けとなった。新年早々、新風舎と草思社の相次ぐ倒産(再生法申請)が屠蘇気分を吹き飛ばした。

“出版不況”がボディブローのように効いていることを押さえておこう

両社それぞれ業態も歴史もまるで違うから、ひとしなみに論ずるわけにはいかないのだが、いわゆる“出版不況”がボディブローのようにジワリときいてきた点は押さえておく必要がある。

新風舎は自費出版の大手版元、それまでトップだった文芸社を一気に抜き去り、講談社の刊行点数を超える急成長ぶりがかねてからいろんな意味で注目してきた。もともと自費出版は刊行に伴う経済的リスクのほとんどを著者が負担しているのだから、負債がふくらみ倒産に至るといのは私の常識では理解できない。一体何があったのだろうか。

大手自費出版社の動向を注目しながら苦々しい思いで眺めていたが……

とまあ評論家風な言い草になってしまったが、実はここ十五年来、こうした大手自費出版社の動向を注目しながら苦々しい思いで眺めてきた。

私はこの十五年間(葦書房十年、弦書房五年)、いわゆる地方出版に携わってきたが、その総売上げの三割前後は自費出版物の受注が占めていた。しかし、近代文芸社、文芸社、やがて碧天社、新風舎と自費出版大手の新聞広告を使った派手な全国展開が始まり、さらに大手版元も子会社を使ってこの分

野に進出してきた。

結果、私どもへの受注は次第に減りはじめる。おそらく各地方出版社や零細出版社でも似たような現象が起きていたに違いない。

彼らの商法は(細部に相違はあっても)、たとえてみれば、家族連れの潮干狩りで賑わう砂浜にいきなり大熊手付きブルドーザーで突っ込んできて、ごっそりアサリを獲っていくような案配であった。少なくとも私にはそう感じられた。

断っておくが、私は彼らに顧客を奪われたことに愚痴をこぼしたり、怨嗟の声をあげているのではない。

自費出版の著者の大半は、当然のことながら出版の素人だから流通や書籍販売の実際に通じてはいない。しかし、たくさん売れて(読んで)欲しい。いや自分の作品は売れるはずだという自信(過信)もあれば野心もある。そこにつけ込むあざとい商法ではやがてトラブルを招き、ひいてはこちらにまで“出版社不信”という火の粉が降りかかってくるのではないかと思ひ、苦々しく思っていたのである。

“共同出版”“協力出版”と呼ぶある種「まやかし」の言葉で見方が変わる

しかし、経済行為としての自費出版受注を版元の視点から見れば、私たちの引き受ける自費出版も基本的にはあまりかわらない、違いは「程度の差」であろうと高をくくっていた。ところが、彼らの顧客勧誘法はいかにもいかがわしかった。実際に顧客に送られてくる著者の原稿をほめちぎる歯の浮くような勧誘文、法外に高い見積額、さ

らには“共同出版”と言い“協力出版”と呼ぶある種「まやかし」(と私には映る)の言葉の数々を見るに及んでいささか見方が変わった。

各社の見積書持参のお客から意見を求められたことも一再ならずあったが、仰天したのはある知人から聞かされた話である。何と九州から上京する折りには航空運賃もホテル代も出版社が「持つ」というのである。どこからそんな金をひねり出せるのか。自明であろう。そしてこうして出来上がった本はとてもプロの手になったとは思えぬ無惨なものであった。

恐れていた出版界全体の信用失墜

繰り返すが、私が恐れたのは自社の受注減だけではない。こうしたあくなき勧誘攻勢とそれに伴うトラブルの招来が、ひいては出版界全体の信用を失墜させていくことだった。いわば業界のモラルハザードである。

形態や規模は様々でも、ほぼ例外なく自費出版も引き受けている地方・零細出版社にとって、この「信用不安」の波及するところは決して小さくはない。

かくして大きく信用の揺らいだ自費出版ではあるが、依然として「自分も本を作りたい」という人々の要望は根強い。

しかし、著者の「自信作」(過信)→「全国の店頭に並ぶ」→「売れる」という共同幻想の連鎖が誘導され続ける限りトラブルは絶えないであろう。

そのことをきちんと説明し、了解を得たうえで自費出版は引き受けるべきである。こうして愚直なまでに著者に誠実に対応していくほかに失墜した信用を回復できる道はない。自費出版も受けてきた十五年の経験からそう確信している。

(みはら・ひろよし 弦書房前代表)

# 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

## 『座右の日本』 ●プラープダー・ユン著／吉岡憲彦訳



短編集『鏡の中を数える』や浅野忠信主演映画『地球で最後のふたり』の脚本家として知られるタイの人気作家。日本のカルチャー誌での連載と日本滞在記をまとめた初のエッセイ集。異邦人の眼と好奇心、独特だが同時代性を強く感じる嗅覚、そして心優しい理解をも持ち、大通りも路地裏もすいすいと歩いていく。日本の街角で、学生時代を過ごしたアメリカで、母国タイで、人や自

然や本やアートに触れ、日本を思う。読者は、特別ではない日本の日常を、素直で時に深い彼の眼差しを借り客観的に見ることができる。近づいたと思っても未だ日本も人生も「深き謎」、その謎を解く旅を続けると著者は言う。

◆1890円・四六判・207頁・東京・タイムズ・ブックス・ジャパン・2008/1刊・ISBN978-4-9903621-2-6

## 『長崎蘭学の巨人－志筑忠雄とその時代』 ●松尾龍之介著



寛永16年(1639)以来、ペリーが来航する嘉永6年(1853)まで、わが国は「鎖国」下にあった。しかるにこの語の初出が、享和元年(1801)のオランダ通詞志筑忠雄訳、ケンペル『日本誌』であることは、意外と知られていない。当時、世界に向けての唯一の窓口であった長崎で活躍した通詞は世襲制で、外交・商務官とも言える重い責務も担っていた。吉雄、本木といった名家や本書

の主人公である志筑らと平賀源内、三浦梅園、大槻玄沢などの遊学者たちとの関わり、蘭学一辺倒から、仏語、英語、露語に移っていく社会情勢の変化、西洋科学・文明の受容の有りさまを小説仕立てで生き活きと描き出す。

◆1995円・四六判・258頁・福岡・弦書房・2007/12刊・ISBN978-4-902116-95-3

## 『劔岳に三角点を！－明治の測量官から昭和・平成の測量官へ』 ●山田明著



明治40年、参謀本部の柴崎芳太郎測量官一行は三角点測量調査のため劔岳山頂に登頂したが、山岳が険峻だったため三角点の建設は果たせなかった。このほどその測量登山から百周年を迎えたのを機に、明治の末に柴崎測量官一行が果たせなかった山頂での三等三角点建設が決定され、その指揮を執ったのが国土地理院で長年測量の実務に携わってきた著者である。本書にはその計画か

ら標石の運び上げ、埋設工事、観測、標高の決定などがドキュメント風に綴られている。登山、測量などの資料とともに、測量登山の先駆者だった柴崎芳太郎、館潔彦などの気風を受け継ぐ現代の測量官の活躍が描かれていて面白い。

◆1575円・四六判・222頁・富山・桂書房・2007/10刊・ISBN978-4-903351-39-1

## 『どさんこソウルフード－君は甘納豆赤飯を愛せるか！』 ●宇佐美伸著



人には誰でもソウルフード(地域の人々が幼い頃から慣れ親しんできた、愛すべき食べ物)がある。サブタイトルにある“甘納豆赤飯”とは小豆ではなくずばり甘納豆が入った北海道独特の赤飯。他にも肉料理や魚介類、お菓子やインスタント食品から飲料水に至るまで、道産子ソウルフードの数は五十種類にのぼる。ちなみに北海道は釧路生まれの著者のイチ押しソウルフードは「ハタ

ハタの飯ずし」。たとえ時代を経ても再び口にすれば懐かしい空気や情景が立ち上る忘れられない味への熱い思いが溢れる食いしん坊ならではのスーパーエッセイ。北海道の食文化を知る上でも興味深い。

◆1575円・四六判・239頁・北海道・亜璃西・2007/12刊・ISBN978-4-900541-74-0

## 『白畑孝太郎－ある野の昆虫学者の生涯』 ●永幡嘉之著



一介の交番勤務の警察官だった白畑孝太郎(1914-80)だが、虫集めを楽しみのための趣味とは割り切れず、滅び行く昆虫に胸を痛める人だった。シラハタサナエ(トンボ)、シラハタネクイハムシなど新種の発見を含む昆虫採集のかたわら、その地域の昆虫が、どこから、いつ、なぜやってきたのかという生物相の変化に関心をもった白畑は、環境の激変とともに減少するこれら昆虫に危機感

を抱き、早くも自然の保護、保全に目を向けていた。白畑の没後、遺された質の高い、体系的で系統だった膨大な昆虫標本と日誌は、自然豊かな1930-40年代の日本列島の生物相を示すきわめて重要な資料として評価される。早急にこの資料を生かし活用する研究が待たれると本書は訴える。

◆1785円・四六判・266頁・秋田・無明舎出版・2007/12刊・ISBN978-4-89544-467-5

# 売行良好書

期間：2008年1月16日～2月15日

## 〔出荷センター扱い〕※税込み価格

- (1)『医者、用水路を拓く』1890円・石風社 (2)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (3)『機能不全大家族』1600円・アートヴィレッジ (4)『お江戸超低山さんぽ』1365円・書肆侃侃房 (5)『天璋院篤姫』1575円・高城書房 (6)『競馬を操る陰の力』1575円・ノベル出版 (7)『散歩もの』1155円・フリースタイル (8)『ありがとう』1470円・吉備人出版 (9)『中学生の正しい勉強法』1260円・瀬谷出版 (10)『イワナをもっと増やしたい!』1200円・フライの雑誌社 (11)『風の人 宮本常一』2100円・みずのわ出版 (12)『排除型社会』2940円・洛北出版 (13)『植民地時代の古本屋たち』2100円・寿郎社



## 〔三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書〕※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『酒とつまみ 10号』400円・大竹編集企画事務所 (2)『東京かわら版 2月号』420円・東京かわら版 (3)『モツ煮狂い 第2集』504円・平成烏有堂 (4)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (5)『廃村と過疎の風景2』1575円・HEYANEKO (6)『お江戸超低山さんぽ』1365円・書肆侃侃房 (7)『鉄腕伝説「稲尾和久」』1000円・西日本新聞社 (8)『福岡の近代化遺産』2100円・弦書房 (9)『医者、用水路を拓く』1890円・石風社 (10)『北海道いい旅研究室10』690円・海豹舎

## 〔ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書〕※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『広告批評 No. 322』590円・マドラ出版 (2)『本の雑誌 No. 296』530円・本の雑誌社 (3)『広告批評 No. 321』590円・マドラ出版 (4)『ラプーラ Vol. 13』525円・Ricochet (リコシェ) (5)『大河にコップ一杯の水 第1集』2100円・合気ニュース (6)『ことばのこぼこ』1835円・瑞雲舎 (7)『1ちゃん いちにち』1050円・リーブル (8)『ふるさとの食』1890円・海鳥社 (9)『BIRTH』5250円・赤々舎 (10)『愛の歌 恋の歌』1700円・関東図書 (11)『福岡の近代化遺産』2100円・弦書房 (12)『モンゴリアンチョップ』1890円・エヌ・エヌ・エー

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

# トピックス —★★★

## ▼「ふるさとの棚」

ジュンク堂書店新宿店6Fで2月4日にプレオープンした地方出版コーナーは「ふるさとの棚」という名称になりました。センターで取扱のある地方出版社の本だけではなく、大手から中小の出版社までそれぞれの地域(県)に関わる本をいっしょに並べた売場です。

## ▼「わが町で本を出す」

朝日新聞夕刊一面の「ニッポン人・脈・記」で1月25日から「わが町で本を出す」という連載が始まり、多くの反響が寄せられました。中でも連載3回目に那覇出版社の『写真記録・これが沖縄戦だ』(1785円・品切中)が表紙写真のエピソード—表紙に写っている血まみれのおかっぱ頭の少女が後年著者の大田氏に名乗り出たが、それは男性だったという—とともに紹介されるとすぐに多くの注文が集まり、出版社さんも3月上旬に増刷することを決めたとのことです。他に取り上げられた出版社および書籍としては、福岡・石風社『医者、用水路を拓く』(1890円)、福岡・弦書房『復讐するは我にあり』(2520円)、鹿児島・南方新社『南西諸島史料集』(第一巻18900円)、福島・奥会津書房『会津学』(1～3各1500円)、北海道・寿郎社『横須賀Dブルース』(1575円)、沖縄・ボーダーインク『なんだこりゃ〜沖縄!』(1680円)等があります。なお連載最終回では、閉店した書肆アクセスのことも取り上げられました。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



## 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

